

野田市自治会連合会では、以前は外部から講師を招き講演会を開催していましたが、昨年度からは自治会活動発表会として、自治会の取り組みを発表していただいています。対面で行ったのは今回が初めてです。さあ、どんな様子だったのでしょうか。連合会日より事業担当者、福田正様のレポートです。



## 有意義だった自治会活動発表会

発表会の様子は動画でも配信しています。パソコンやスマートフォンで“野田市自治会連合会ホームページ”と検索していただき、トップページを下にスクロールしてください。

中野台・堤台地区連合会 会長 福田 正  
〔常任理事：中野台第4自治会会長〕

令和5年10月21日（土）市役所8階大会議室に於いて自治会活動発表会が開催されました。今回で2回目という新しい事業であり、昨年度はコロナ禍のため集会形式での開催を中止し、動画配信のみを行いましたが、やっと本来のやり方で開催することができました。事業担当者と常任理事のおよそ20名は12時に集合し、会場準備にあたりました。

午後1時の開場を迎えると、自治会長をはじめ自治会役員や会員の方々約40名が来場し、総勢60名ほどで午後1時30分から自治会活動発表会が始まりました。五味会長の挨拶の後、3名の方から発表がありました。

最初は、南部第2地区連合会所属、若葉台自治会会長宮内彦行様です。「自治会単位での防災訓練から自治会連合会での防災訓練等の効果について」をテーマに、事例を紹介しながら様々な形の防災訓練のあり方を提示されました。



宮内彦行様



石原義雄様

次の発表は、川間地区連合会所属、尾崎6区自治会会長石原義雄様の「自治会の加入率低下と退会者抑制のための取り組みについて」です。どの自治会にも共通する問題ですが、尾崎6区自治会では新たな試みとして、昨年7月に自治会館にカラオケを設置し、会員相互の交流の輪を拡大し高齢者から若い方まで広く楽しんでもらおうと取り組んでいます。

最後に、福田地区連合会所属、二ツ塚自治会会長市原康雄様の「自治会員以外の住民も含めた防災対策の取り組みについて」の発表は、パワーポイントにて説明されました。避難者カードや非常用呼子笛を自治会に入っていない世帯にも配布し、万一の災害時は同じ場所に住む者として助け合う意義を説明されていました。



市原康雄様

それぞれの発表ごとに質疑応答を行い、締めくくりに五味会長の総括があり、午後3時に閉会となりました。事後のアンケートでは81%の方が参考になったと答えています。

# 特集

理事視察研修は、令和2年度、3年度、4年度とコロナ禍ため中止を余儀なくされていましたが、今年度は4年ぶりに実施することができました。例年は1泊2日の研修でしたが、今回は日帰りでの実施となりました。

## 令和5年度理事視察研修に参加して

木間ヶ瀬地区連合会 会長 川村 春樹  
〔常任理事：志部前堀自治会会長〕

11月8日（水）午前8時30分に市役所を出発、関宿中央公民館で関宿地区からの参加者を乗せた市のバスは、研修場所である上新郷地区河川防災ステーションに向け、圏央道、東北自動車道を走行していた。この日の参加者は連合会役員および理事19名。立冬であったが、穏やかな晴天に恵まれて暖かな日である。車内は和やかな雰囲気だ。



1 km先まで届く投光器を積載した  
国土交通省の大型トラック

このステーションは、堤防決壊や地震時などの緊急時に災害復旧活動の拠点として、水防センターやヘリポートを整備した施設だ。平常時には地域の人たちが親しめるよう道の駅「はにゆう」を併設している。

研修での説明では、昭和22年に関東地方や東北地方に甚大な被害をもたらした「カスリーン台風」と、令和元年の台風19号の進路が似ていることから、台風の進路と被害の相関関係を予測し、対策を講じることが可能となるとのことであった。また、台風の進路と被害をシミュレーションし、利根川堤防の補強箇所を洗い出し計画的に工事を進めているそうだ。ただ、どこでも同じく予算の壁が立ち上がる。人命尊重の趣旨から予算を度外視しても進めてほしい。

研修のまとめとして、災害に対して「自ら考えて行動することが大事。早めに！遠くに！」空振りを恐れず早めに行動することが、命を守る最大の決め手と再認識した。

研修に参加したほとんどの理事が、こうした施設があることを知らなかった実態から、行政側にもう少しPRの工夫をお願いしたいと思ったのは私だけだろうか？

終わりに、このような研修を計画していただいた野田市自治会連合会事業担当者に感謝するとともに、研修の場を提供し丁寧な説明をしていただいた利根川上流河川事務所の職員の方々に敬意を表したい。



熱心な見学の様子